

旭化成株式会社 様

# 「つながる×ICT」、デザイン思考で新しい働き方を創出 多角的な事業と多彩な人財を活かしイノベーションを起こす

商品名	
FUJITSU IT Consulting ワークスタイル UX デザインコンサルティング	
課題	効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本社移転を機会に、さらなる成長の原動力となる新しい働き方を創出したい</li> <li>■ 短期間でワークスタイル変革の方向性を定め、新オフィスの設計に活かしたい</li> <li>■ 目指すべきワークスタイル変革を企業文化として定着させたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 代表メンバー約40名の社員によりワークショップを開催。デザイン思考で将来ビジョンを描き、実現のための施策を導き出した</li> <li>■ 豊富な実績とノウハウを駆使して短期間でアイデアを引き出し、新しい働き方を具現化。コネクトスペースなどに反映</li> <li>■ 社内のデジタルサイネージで「ビジュアル化したワークスタイル変革のビジョン」、「イラスト化したワークシーン」を周知</li> </ul>

日本を代表する総合化学メーカーである旭化成グループ。同社は、本社の日比谷移転にあわせ、“Connect”をキーワードに働き方改革に取り組んだ。多角的に事業を展開している同社の多彩な人財を活かせるような新しい働き方の創出が狙いだ。そこで、「FUJITSU IT Consulting ワークスタイルUXデザインコンサルティング」を活用。富士通の経験豊富な専門家のもと各部署からの代表メンバーによるワークショップを開催し、デザイン思考で将来のありたい働き方を描き、その実現のための施策を導き出した。

## 導入の背景

### 本社移転を契機に、成長の原動力となる新しい働き方を創出

「世界の人のびとを“いのち”と“くらし”に貢献します」というグループ理念の実現に向け、創造と挑戦を続ける総合化学メーカー、旭化成グループ。2016年、グループシナジーの創出を目的に事業持株会社制に移行し、マテリアル(繊維・ケミカル・エレクトロニクス)、住宅(住宅・建材)、ヘルスケア(医薬・医療・クリティカルケア)の3つの事業領域に再編し、「収益性の高い付加価値型事業の集合体」を目指している。

多角的な事業のもとで培った多様な製品・技術と多彩な人財は旭化成の大きな強みだ。旭化成株式会社 取締役 兼 常務執行役員 柿澤 信行氏は「中期経営計画(2016年度～2018年度)のキーワードに“Connect”を

掲げているように、旭化成のさらなる成長には部署同士が垣根を超えてつながり、新たな社会的価値を創出していくことが必要です」と話し、こう続ける。「多角化は旭化成の強みですが、その一方で事業部ごとに部分最適が進んでおり、横の連携が生まれにくい側面もあります。部分最適から全体最適へと大きく転換するきっかけとなったのが本社移転でした」

2018年9月、旭化成は東京ミッドタウン日比谷のオフィスフロア(日比谷三井タワー)に本社を移転した。「主力事業部が集まり、3,000人規模の社員による引越しとなりました。移転を契機に、つながりの生まれやすい環境を作るハード面と、ワークスタイル変革のソフト面の両面から“Connect”の実現を目指しました。ワークスタイル変革では専門コンサルタントにお願いし、サポートをお願いしました」と、日比谷移転プロジェクト長としてプロジェクトを主導した柿澤氏は振り返る。



旭化成株式会社  
取締役  
兼 常務執行役員  
柿澤 信行 氏



旭化成株式会社  
総務部  
企画総務室  
室長  
志田原 周作 氏



旭化成株式会社  
総務部  
企画総務室 総務グループ  
課長代理  
須本 純代 氏

### お客様プロフィール

**旭化成株式会社**

本 社 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 日比谷三井タワー  
代 表 者 代表取締役社長 小堀 秀毅  
設 立 1931年5月21日  
資 本 金 103,389百万円  
従 業 員 数 34,670人(連結)  
事 業 内 容 マテリアル領域(繊維事業・ケミカル事業・エレクトロニクス事業)、  
住宅領域(住宅事業・建材事業)、ヘルスケア領域(医薬事業・医療事業・  
クリティカルケア事業)  
ホームページ <https://www.asahi-kasei.co.jp/>

## 採用のポイント

### デザイン思考<sup>\*1</sup>による共創アプローチを体感し高く評価

日比谷移転プロジェクトがスタートした2017年2月、同社はワークスタイル変革の支援を受けるべく、什器メーカー、コンサルティング会社、ICTベンダーなど複数社に提案依頼の声をかけた。採用のポイントについて、総務部 企画総務室 室長 志田原 周作氏はこう話す。「通常、ワークスタイル変革のコンサルティングには3年程度の期間が必要と聞いていました。本社移転は2018年9月に決まっていたため、非常に短期間でワークスタイル変革の方向性を導き出す必要がありました」

複数のプレゼンテーションの中で最も共感できたのが、富士通だったと志田原氏は話す。「富士通の共創ワークショップ空間『FUJITSU Digital Transformation Center (DTC)』において、ワークショップの進め方を体感できたことはとても有意義でした。経験豊富な専門家のもと、デザイン思考でワークスタイル変革のビジョンや施策を具現化していく、共創のアプローチを高く評価しました。変革ビジョンのビジュアル化例を見せていただいたのですが、『当社の場合はどうなるのだろうか?』と非常に期待感を持ちました」

コンサルティングの豊富な実績と、それに基づくノウハウを有していることもDTCでの体験を通じて実感できたという。志田原氏は「ワークスタイル変革の実現で欠かせないICTについても富士通にはアドバンテージがありました」と付け加える。

旭化成は、コンサルティングからICTまでトータルでサポートする総合力を高く評価し、「FUJITSU IT Consulting ワークスタイルUXデザインコンサルティング」の採用を決めた。

<sup>\*1</sup> デザイン思考: 人間中心デザインに基づいた、イノベーションを生み出すために、デザイナーの仕事術をビジネスに適用するもの

## コンサルティングの内容

### ワークショップを開催し、ビジョンからワークシーン、施策までを導き出す

2017年7月、富士通が共創の場として開設した「HAB-YU」において、旭化成グループの各事業会社や事業本部などの代表メンバー約40人が参加し、「新オフィスでのワークスタイルを考える」ワークショップが開催された。

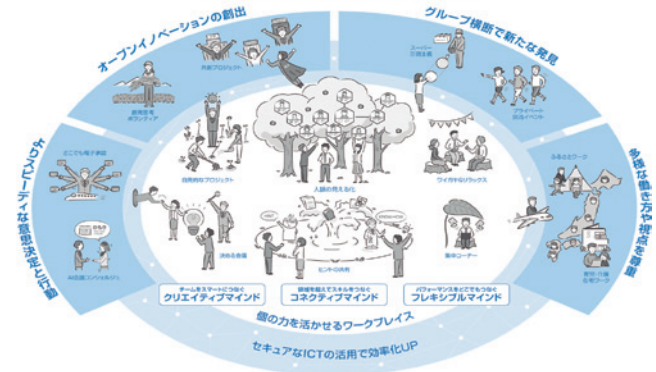
ワークショップに参加した総務部 企画総務室 総務グループ 課長代理 須本 純代氏は「これまで経験したワークショップや研修とは全く違っていました。目指す未来の働き方に合った写真入りのインスピレーションカードを選んだり、新オフィスで実現したい施策について自分でイラストを描いてカード化したりと、自然に会話も弾みました。また将来のありたい姿を描き、共有した上で、そこから今何をすべきかを考えていくデザイン・アプローチの手法はとても新鮮でした」と感想を述べる。

ワークスタイルUXデザインコンサルティングでは、今回のワークショップで参加者が描いた「将来のありたい姿」を抽象化し、ワークスタイル変革のビジョンをビジュアル化して提示した。「様々な意見を集約し、変革ビジョンとして1つのビジュアルに結実するまとめ方に富士通のノウハウが活かされています。日比谷の新オフィスからはじまる新しいワークスタイルの目指す方向性が一目でわかります」と志田原氏。

## ■ワークスタイル変革のビジョンをビジュアル化

### 日比谷からはじまる新しいワークスタイル

～個の力を最大限に発揮し、つながりを活かす～



多様な「つながり」で社会の環境変化にすばやく対応

また変革ビジョンの実現に向け、ワークショップで出てきた100以上のアイデアをもとに5つの変革テーマを抽出し、3つのカテゴリーに20のワークシーンを整理した。さらにワークシーンは狙い、現状、変革、ICT施策、想定効果の各項目とともに、わかりやすいイラスト入りで1つのシートにまとめられている。

## 導入の効果と今後の展開

### ワークショップで出たアイデアを反映させた「コネクティア」

今回のワークショップでは「つながり」や「ICT」をキーワードにしたアイデアが多くあった。その中でアイデアをオフィスの設計に反映させた代表例の1つが「コネクティア」だ。変革テーマの1つ「アイデアがひらめき、広がるオフィス」、ワークシーンの「ソリューションスペースでアイデアが繋がる」、「ひらめきやアイデア発想を促す仕掛け」を実現する。コネクティアについて須本氏はこう説明する。「コネクティア内ではICT環境も整い、複数拠点と同時につながったり、モニターを使ってスムーズに資料を共有したり、場所にとらわれない効率的な働き方を実現します。予め時間を決めて会議室でミーティングを行うのではなく、『ちょっといい?』と関係者が声を掛け合い集まるといったシーンでよく利用されています。抽象的な概念の「Connect」を具体化した点も大きな意味があります」

新オフィスではコネクティア以外にも、「自席同様の仕事環境で、場所に拘わらず成果を出す」、「Skype専用BOXで集中ワーク、リモート会議」、などのワークシーンを実現している。今回のワークショップの意義について柿澤氏はこう説明する。「ワークスタイル変革の主役である社員の声を引き出し具現化することで、経営層、日比谷移転プロジェクトのメンバーはもとより各社員が漠然と思っていた「旭化成のこれからの働き方」を明示できたことは大きな意義があります。方向性が定まったことで、本社移転を契機にワークスタイル変革を一気に加速することができました」。

今後は、目指すべきワークスタイル変革を企業文化として定着させることが重要になると志田原氏は指摘する。「富士通からの提案で、社内情報を発信するデジタルサイネージにビジュアル化したワークスタイル変革のビジョンや、イラスト化したワークシーンなどを定期的に流しています」

今後の展望について柿澤氏は「日比谷からはじまる新しいワークスタイル」はまだまだ道半ばです。富士通にはこれからも当社の業務や働き方を深く理解した視点から、AIなどを活用した先進的な提案を期待しています」と語る。

## お問い合わせ先

富士通コンタクトライン(総合窓口) 0120-933-200

受付時間 9:00 ~ 17:30(土・日・祝日・当社指定の休業日を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

<https://www.fujitsu.com/jp/innovation/workstyle/visiondevelopment/>